令和６年度　第１回長野市文化芸術振興審議会　会議録（概要）

日　時　令和６年７月 22 日（月）　午後２時から３時 30 分まで
場　所　長野市役所第一庁舎７階　第３委員会室
出席者　委　員：齊藤会長、霜田職務代理、多田井委員、樋口委員、山中委員、小山委員、
　　柳澤委員、山本委員、北原委員、黒坂委員、渡邉委員（11 名）
　　事務局：（観光文化部）小林部長
　　（観光文化部文化芸術課）峯村次長、前田主幹、楢本補佐、山岸補佐、
　　傳田係長、北澤主事
　　（観光文化部文化財課）　高田課長
　　（文化芸術振興財団）　　戸谷事務局長

資　料
資料１　　第二次長野市文化芸術振興計画　指標推移　令和６年度版
資料２　　第二次長野市文化芸術振興計画　令和５年度実施状況及び令和６年度事業計画
資料３－１　令和６年度　長野市文化芸術振興事業の概要
資料３－２　令和６年度　長野市芸術文化振興基金活用事業の概要
資料４　　一般財団法人長野市文化芸術振興財団　令和５年度事業報告書
資料５　　一般財団法人長野市文化芸術振興財団　令和６年度事業計画書

次　第
１　開会
２　観光文化部長あいさつ
３　会長あいさつ
４　議事
　第二次長野市文化芸術振興計画について
　(1)第二次長野市文化芸術振興計画　指標推移　令和６年度版
　(2)第二次長野市文化芸術振興計画　令和５年度実施状況及び令和６年度事業計画
　(3)令和６年度　長野市文化芸術振興事業の概要
　(4)令和６年度　長野市芸術文化振興基金活用事業の概要
　(5)一般財団法人長野市文化芸術振興財団　令和５年度事業報告書
　(6)一般財団法人長野市文化芸術振興財団　令和６年度事業計画書
５　その他
６　閉会

会議録（概要）

（事務局）　議事について一括説明

（委　員）
資料４の 11 ページで、芸術館の利用状況を見ると、バンド練習室１から３の稼働率が100％となっており、利用頻度は非常に高い。どの世代が利用しているか。
また、申込時点で他の利用希望者と重複している場合は抽選で決めているのか。
一方、アトリエがほとんど使われていないが、今後どのように改善していくのか。

（事務局）
バンド練習室は、１時間単位で貸し出しをしているが、稼働率は１日単位で計算しているため、稼働率が 100％でも、例えば平日の昼間など１日の中でバンド練習室が利用されていない時間帯もある。
利用する世代は、昨年の利用者アンケートによると、芸術館全体では、40 代と 50 代が半数を占めているが、バンド練習室に関しては 20 代や、平日は仕事帰りの利用者が多い。
バント練習室について抽選はしていない。利用希望当日の午後 7 時まで、電話で予約を受け付け、空いているところに入っていただいている。
アトリエは、芸術館事務室向かいの作業場的なスペースであるが、アトリエで作業をする人が非常に少ない。以前は、芸術館で出演される演劇団体が舞台の道具を作るときに使っていたが、最近は、自分達の作業場で用意をして直接、芸術館に持ち込む形を取っている。
現在は、主に芸術館の舞台担当等のスタッフが利用している状況となっている。
今後の活用方法については、課題として引き続き検討していきたい。

（委　員）
資料２の６ページの中学校の部活動について、スポーツ系の部活動は、学校だけでなく地域にもお願いをしているが、文化系の部活動について、その現状と令和７年度末までに地域移行を目指すことについて状況を教えてほしい。

（事務局）
中学校の部活動の地域移行に関しては、全体的な統括は教育委員会だが、スポーツ系の部活動については、競技団体と繋がりが強いスポーツ課で調整をしている。一方で、文化系の部活動については、文化芸術の各種団体との繋がりのある文化芸術課で調整をしている。
文化系の部活動は、スポーツ系でいう競技団体、総合型地域スポーツクラブのような受け皿となる団体が少ないという現状がある。
文化系の部活動はさまざまで、合唱部、吹奏楽部といった、個人のスキルを高めていく中で集団活動する部活や、一方で美術、書道といった個人で活動していく部活もあり、一概にひとまとめに移行を進めていくことは難しい。

そうした中で、まずは集団活動が主となる合唱部、吹奏楽部、演劇部について、先行して進めている。

吹奏楽部や合唱部については、もともと長野市には、長野ジュニアコーラス・ジュニアバンドといったコーラスグループ、吹奏楽グループがあり、吹奏楽部や合唱部に入っている各校の生徒の中で、平日だけではなく休日にもスキルを高めたい意欲ある生徒と、その思いに応えようとする先生方がボランティアとして集まっている。そこを地域移行の受け皿にできないかということで国からの交付金を活用し実証事業を始めた。

休日の活動について、廃止する中学校もあるが、長野ジュニアコーラス・ジュニアバンドは、土日を中心に、２月のハートフルコンサートを目指して秋頃から活動を始める仕組みであり、その仕組みを活かして、１年を通して活動できないか実証を行っている。

演劇については、演劇グループが市内に少なく、受け皿になり得るような枠組みもない。そこで、長野市が共催している長野市民演劇祭実行委員会の委員と相談をしている。

個人活動が主な部活については美術部や書道部などで、特に美術部は人数が多い状況となっている。スポーツ系よりは若干遅れているが、顧問の先生方と相談し、ニーズも確認しながら、一番いい形となるように進めていきたい。

文化系部活動は、来年の令和７年度末を目途に、まずは休日の活動の完全移行を目指している。教育委員会ではもちろん、平日の活動についても移行を進めるため、休日のあとは平日と段階的に地域移行を考えている。地域の中に子ども達が活動できる場所があるとよいが、スポーツ系と異なり、そうした受け皿となるような組織団体がないところが難しい。

（委　員）

文化系の受け皿がないとなれば、帰宅部になる。

市でもサポートしていただいて、生徒が１日、充実して過ごせればいいと思う。

（事務局）

受け皿として、幾つか軸になるところが必要になるので現在、長野ジュニアコーラス・ジュニアバンドで実証事業を行っているが、生徒の選択によりどこで活動してもらってもいいと思っている。芸術館のジュニアコーラスもそうだが、民間にもきっと、合唱団のようなところがある。ただ、部活動ではなく地域での活動となると、そこにどうしても費用は発生してしまう。

（委　員）

スポーツもそうだが、学校単位でフルセットに活動させることは理想であり難しい。

活動費に「みらいハッ！ケン」プロジェクトは使用できるのか。

（事務局）

休日の活動に関し、合唱と吹奏楽でかかる費用に違いはあるが、実証事業の中で、長野ジュニアコーラス（NJC）・ジュニアバンド（NJB）それぞれに「みらいハッ！ケン」プロジェ

クトの登録事業者になってもらい、ポイントを使って活動してもらっている。現段階では、特別な費用は除いて、一般的な日々の活動費はポイントで賄える形となっている。

（委　員）
　できれば、「みらいハッ！ケン」プロジェクト事業も、全部横にリンクさせて、１つのアフタースクールケア事業のような話にした方が、市民にも分かりやすい。
　部活について、不安に思っている人は多いので、できるだけ早く市の方針を示してほしい。

（事務局）
　保護者の皆さんの不安も大きいと思う。教育委員会ともうまく連携していきたい。

（委　員）
　昨年度まで佐久市の学校に勤めていたが、長野市はかなり進んでいると思った。
　県外の会議に出席した校長先生のお話でも、令和７年度までの移行期限を決め、「みらいハッ！ケン」プロジェクトのようなポイントを付けて進めている市町村は少ないと聞く。NJC、NJB については、会費を現金又はポイントで支払いを選択できるのでよく考えられている。
　（地域移行にあたり）戸隠のような場所から（市街地まで）通うためには少し時間がかかるので、やはり地域内に受け皿をつくる必要があり、戸隠中学校の場合は部活動を今年度で終わりにして全て地域内に受け皿をつくっていく。実際、本格的に活動したいという２年生の卓球部の生徒は、学区内のクラブチームに所属している。

（委　員）
　長野市は事業規模が大きいが、松本市でも結構、文化芸術には力を入れている。予算的にはどのくらい違うのですか。

（事務局）
　調べて、後程、提供する。

（委　員）
　先程の芸術館地下のアトリエやミーティングルームについて、私ども北信美術会のさまざまな研究会等で使わせていただければありがたい。具体的には北信美術会の作品研究会や会議をミーティングルームで開催したい。
　少し宣伝が足りないのではないのかと思う。東部文化ホールについても今回、長野県展の作品を搬入し利用させていただくようになったが、市の施設ということを全く知らなかった。駐車場も非常に広いしありがたい。

（事務局）
　東部文化ホールは、今年度から指定管理になった。今後、指定管理者とも相談しながら、多くの皆さんに使っていただけるようＰＲしていきたい。

（委　員）
　吹奏楽団の関係では、各学校で活動をしても、なかなか団員が集まらないという状況の中、先日開催した文化芸術祭では、学校の枠にとらわれず、各学校から集まった生徒達に出演していただき、非常に観客から評判が良かった。今後は地域全体で活動を支えていく形だと感じている。
　各地区の住民自治協議会と連携して、公民館や公会堂を文化芸術活動の拠点として活用するなど、市が主導して方向性を決めていけるとよい。活発に活動しているところとそうでないところがあるが、全体的に活用を検討してもよい。

（事務局）
　文化芸術祭に出演していただいた吹奏楽団はNJBになる。
　NJBは、学校部活動の受け皿になることを目指して活動している。学校単位での活動が難しくなってきている中、複数の学校で練習することを模索している状況にある。
　公民館等の活用については、文化芸術以外の活動も行われており、利用率が高く、どのように連携していけばよいか検討しなければならないが、部活動の地域移行に関して、公民館で活動している団体のお力も今後、借りていかなければならないと思っている。

（委　員）
　文化財のことで教えていただきたい。
　長野市から文化財の指定を受けるには、どのような基準があるか。

（事務局）
　文化財には建造物や、樹木等の天然記念物など様々なものがある。例えば建造物であれば、最低限50年以上継続して守られていることなどが条件になる。新規に指定を要望される場合には、長野市地方文化財保護審議会委員が調査を行い、審議会で価値を判断する。時代背景なども考慮しながら貴重で価値あるものだという判断になれば指定することになる。
　市、県、国指定のランクは重要度に応じてケースバイケースで判断される。

（委　員）
　例えば、ながの祇園祭の各町の屋台は江戸時代に作られたものも多くあり、文化財の指定をいただけないものか。あるいは、ながの祇園祭は、日本三大祇園祭として語られてきたので、お祭り自体も含めて今後、調査をしていただきたい。町からは、長野市の文化財指定を受けられれば、県や国からの補助金をいただけるとのお話をうかがった。

（事務局）
　県や国の補助金となると、当然その前段として市等の指定が必要になるので、まずは、地元からの要望をいただき、市で指定することが適当というものであれば、長野市地方文化財保護審議会委員による調査を行い、審議会で協議をしていきたい。

（事務局）
　ながの祇園祭については、運行に関する経費や屋台の組み立て、修理に関する経費の一部を観光振興課で補助している。町に確認していただきたい。100％補助はなかなか難しいので、ご理解いただきたい。

（委　員）
　夏休み中、私たちの時代はラジオ体操や水泳に毎日通っていたが、回数が減って基本的に子ども達が家にずっといる。
　小学生や中学生が夏休み期間中に文化芸術に触れる機会はあるか。また、学校を通じてチラシなど配布していれば教えていただきたい。

（事務局）
　ラジオ体操や水泳については、教育委員会や地元の育成会などに確認しないと詳しいことは分からない。
　子ども向けの文化芸術のイベントや催しであれば、松代文化ホールや東部文化ホールでは指定管理者の独自事業として子ども向けのイベントを実施している。
　文化芸術ではないが、城山公園に間もなく、「ながノビ」がオープンするので、ぜひご利用いただきたい。

（事務局）
　伝統芸能子どもフェスティバルを 10 月 26 日、27 日に予定している。
　今年度６回目で、芸術館のメインホールで開催する。イベント前に数ヶ月間、三味線や日本舞踊など先生に指導してもらい発表する。現在、参加する子どもを募集している。

（委　員）
　親目線だとチラシがすぐ手元にあると必ず見る。学校を通じて配布すればかなり効果的だと思う。また、最近、「Voicy」というラジオメディアを使っている。家事をしながらでもさまざまな情報を取り入れられるので、ＰＲ方法の１つだと思う。
　また夏は、子ども達が外で遊ぶことは、この暑さの中では難しいので、可能であれば芸術館で空いている施設があれば、無料とまでは言わないが開放する機会を増やしてもらいたい。子どもたちもそこに行って何かをするとなれば意欲が沸くと思うので、市の協力があれば嬉しい。

（委　員）
伝統芸能子どもフェスティバルの申込方法についても、ペーパーレスということで、全部メール又はＱＲコードの読み取りになっていた。いきなりペーパーレスと言われても困る。
今年新しく応募してきた親御さんの中には、子どもがチラシを持ってきて本人がやりたいと言ったので応募したという方もいた。ＱＲコードを読んでくださいというだけでは、親は忙しくてあまり見られないと思う。

（事務局）
昨年までチラシは学校を通じてお配りしていたが、教育委員会から、今年からはメール配信を全般的に増やしていくということで、どうしてもメールだと埋もれてしまう部分があるように思う。難しい面もあるが、教育委員会とも相談したい。

（委　員）
資料２の 12 ページ「事業 24」に「文化的な観光資源や美しい自然環境等を生かし、体験型観光等を組み合わせた誘客を促進」とあるが、体験型観光とは例えばどういうことか。

（事務局）
具体的には、四季折々の収穫体験やＥバイク体験などがある。各観光協会にメニューとして取り入れていただいている。Ｅバイクはあまり（費用面で）負担をかけずにエリア内を周遊できるという利点がある。また冬場は、スノーシューあるいは星空観測など、長野市ならではの体験、ここでしか味わえないような新しい体験型メニューを作っている。関係者の皆さんにモニターツアーで体験していただき発信するという形で取り組んでいる。飯綱、戸隠におけるスタンプラリーもその一環として現在実施している。

（委　員）
資料２の 12 ページ「事業 25」に、「長野市食農ときめき講座」というものがある。講座７回で受講生が 16 人では少ないと思う。また、「長野市農村女性ネットワーク研究会」は初めて聞いたが、「食」を広めていくことはとても良いこと。もちろん、アートや音楽も大事だが、文化芸術の中で「食」を振興していけるのであれば、例えば、「食」に関する企画やイベントなどにもう少し幅広く取り組んでもらえるとよいと思う。

（事務局）
担当が農業政策課になり、講座 7 回で受講生 16 人と少ない理由は把握していないが、「食」も１つの立派な文化になる。「事業 25」に書いてある「商店街」や「食」の振興は各担当課とも連携を図りながら実施していきたい。

（委　員）

部活動について、特に文化部は、小・中・高校の美術部で美術に親しんだ人が美術館に作品を持ち寄ってくれるということもあって、美術館にとっても部活動が無くなることは長い目で見れば大きな問題だと思う。特に、美術部や書道部などは自分なりに技術に興味を持てるように、市町村単位でぜひ、昔の寺子屋のような受け皿をお願いしたい。

例えば、若手の美術家に公民館などを提供して子ども達が集まれる場所を作り、教えてもらえれば、受け皿にもなるし、若手自身の人材育成にもつながる。美術部が帰宅部にならないように育んでいく仕組みを考えてほしい。